

全世界的に、国連サミットで採択されたSDGsの17の目標に向かっていく時代となっています。

当社の主事業である染色整理は非常に多くの水、エネルギー、化学薬品を使用することから、地球環境への影響を最小限にすることを最優先責務として脱炭素経営を行うことを宣言します。

この度、環境省の指導の下、国際的な算定基準にて①事業活動の二酸化炭素排出量（スコープ1,2）の把握と、②二酸化炭素排出量中長期削減目標の設定を行いました。

当社は現時点においても、二酸化炭素排出量が少なく、今後さらに削減していくことに意欲的な企業です。

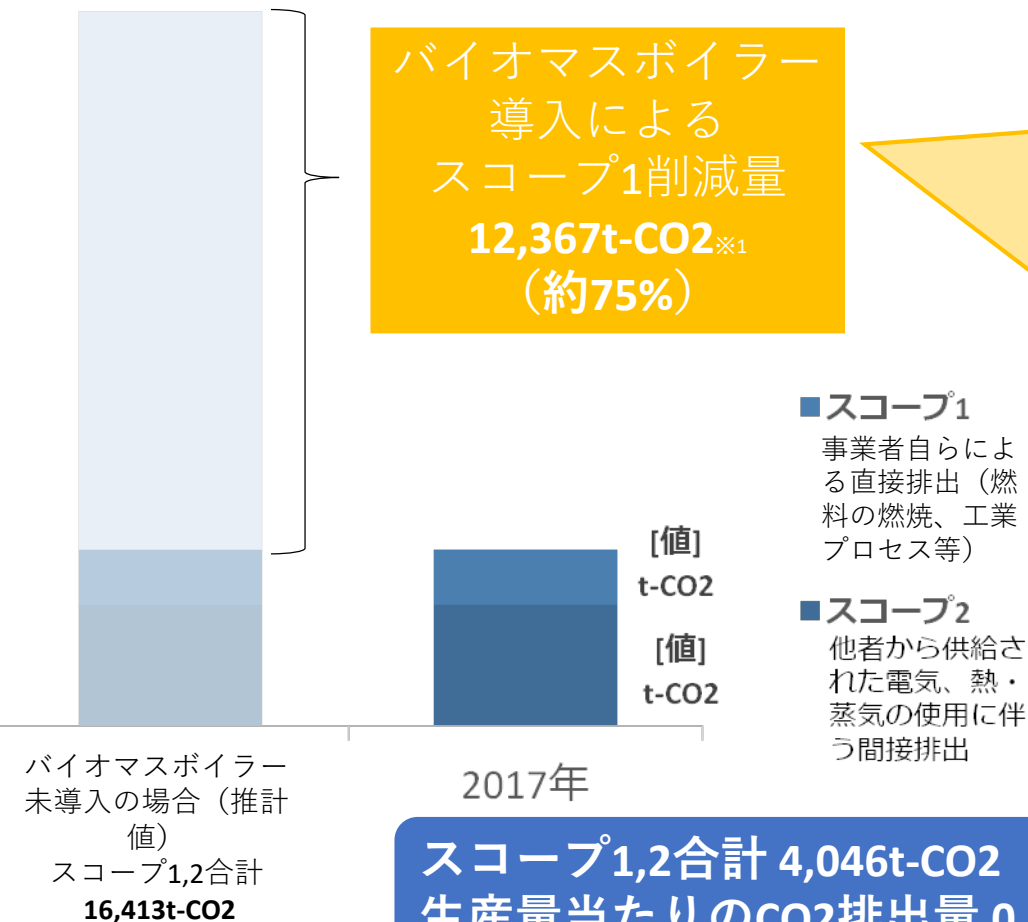
お客様、アパレル企業様、その他当社製品をご使用いただいているお客様に対して、ご採用の参考にしていただけると幸いです。



染色整理は非常に多くの水、エネルギー、化学薬品を使用することから、地球環境への影響を最小限にすることを最優先責務として環境活動に取り組んできました。この度気候変動に係る新たな取組として、環境省「中小企業版2°C目標・RE100設定支援」の参加企業に採択され、①事業活動の温室効果ガス排出量（スコープ1,2）の把握と、②中小企業版2°C目標（SBTと同水準の中長期削減目標）の設定を行いました。

## ①事業活動に伴う温室効果ガス排出量（スコープ1,2）の把握

国際的な算定基準である「GHGプロトコル」に準拠して、事業活動の温室効果ガス排出量（スコープ1,2）の把握を行いました。



昭和62年という早い時期にバイオマスボイラーへの燃料転換を行っています。染色過程における熱の全てを賄い、カーボンニュートラル※2を実現しています。燃料には地元の建設廃材由来の木質チップを使用しています。

※2 植物由来燃料は成長過程のCO2吸収量と燃焼時の排出量が相殺され、大気中のCO2の増減に影響を与えないとする考え方。

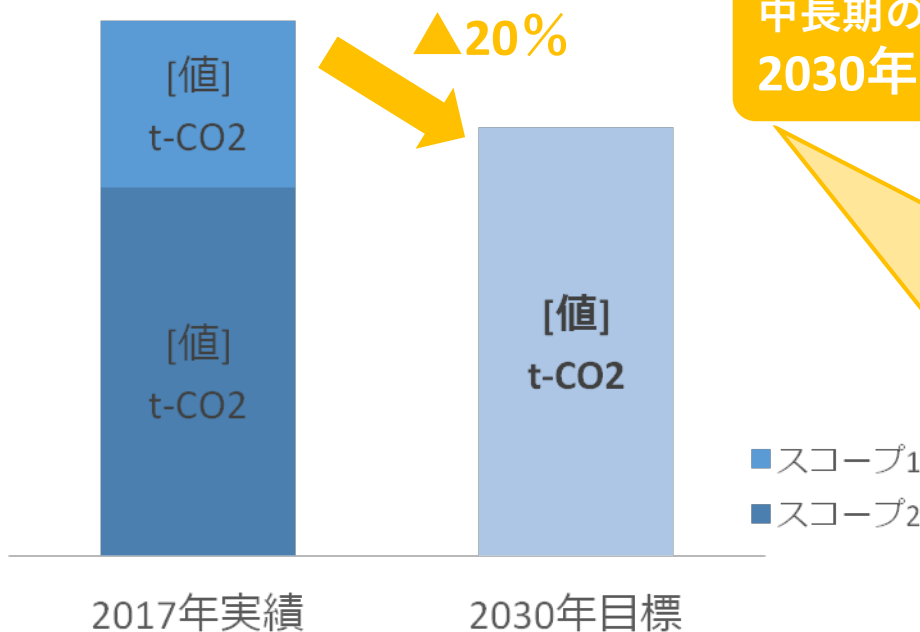


バイオマスボイラー（昭和62年導入）

※1 2017年の木質チップ使用量実績から熱量を算出。同じ熱量をLPGで賄う場合に推定されるLPG燃焼に伴うCO2排出量を計算。

## ②中小企業版2°C目標（SBTと同水準の中長期削減目標）設定

2015年のSDGsやパリ協定合意以降、企業が中長期の温室効果ガス削減目標を立てることが新たな潮流となりつつあります。その中の一つにSBT（企業版2°C目標、Science Based Targets）があります。自主的にSBTと同水準の野心的な目標設定を行いました。



中長期の温室効果ガス排出量削減目標（スコープ1,2）  
2030年に2017年比 約20%削減

更なる省エネルギーの推進、再生可能エネルギー導入に向けて、積極的な改善活動や投資を行い目標達成を目指すと同時に、地球環境保護を考えるきっかけとなる布製品作りにも挑戦していきます。



省エネルギー型ハイブリッド染色機  
(平成24年導入)



のこり染（食品加工場出る廃棄食材を原料とした染色）を採用した暮らしの布具を扱う自社ブランド「KURAKIN」

### ■SBT（企業版2°C目標、Science Based Targets）とは？

産業革命時期比の気温上昇を2°C未満にするために、企業が気候科学（IPCC）に基づく削減シナリオと整合した削減目標を設定するものです。2050年に2010年比49～72%削減を目安として、2025年～30年頃の目標を設定します。

国連グローバル・コンパクト、CDP、WRI（世界資源研究所）の4団体がSBTイニシアティブを設立・運営し、企業のSBT設定を促しています。イニシアティブに加盟する企業は、目標設定を行い、事務局による審査を経てSBTとして承認されます。

環境省では、中小企業が自主的にSBTと同水準で設定した目標を「中小企業版2°C目標」として、国際イニシアティブへの参加が難しい中小企業においても中長期目標設定を行うことを推進しています。

### SBTのイメージ

